Viva Video!

久保田成子展

会場マップと解説

《ヴィデオ・ポエム》1968-76／2018 年

久保田が最初に制作したヴィデオ彫刻のひとつです。風で膨らませた布袋で無機質なブラウン管を包み込むことで、有機的で独特のフォルムを生み出しました。オリジナルでは、小杉武久の作品《Chamber Music》（1962 年）で使われた袋を再利用していました。壁には V の韻を踏んだテキストが添えられています。

「ヴィデオはヴァギナの復讐 ／ヴィデオはヴァギナの勝利 ／ヴィデオは知識人たちの性病 ／ヴィデオは空室のアパート ／ヴィデオはアートの休暇／ヴィデオ万歳……」

《デュシャンピアナ：ドア》1976-77 年

このドアの枠はマルセル・デュシャンの《ドア：ラレ街 11 番地》と同じ構造で、直角を成す２つのドアの扉は 1 枚しかなく、いつも同時に開いて／閉じています。内部のモニターには葉巻をくゆらせるデュシャンが映し出されていますが、イエローストーン国立公園の間歇泉（かんけつせん）から吹き出す水蒸気の映像がかぶさり、そこに溶け込んでいきます。デュシャン本人がこう言うのが聞こえます。「アートは蜃気楼だ……」壁には次のような言葉が添えられています。「ドア／あなたの精神を開くドア／あなたの精神を閉じるドア」

《デュシャンピアナ：ヴィデオ・チェス》1968-75 年

「リユニオン」（1968 年）で久保田が撮影したデュシャンとケージの写真を露光調整、加工し、着色を施して 1972 年にヴィデオ作品として発表。その映像を使ったヴィデオ彫刻が本作です。天井を向いたモニターの上に透明なチェス盤と駒が設置され、コンサートのオリジナル・サウンドトラックが流れています。のちにデュシャンと久保田による以下のテキストも添えられました。

「解決は存在しない、なぜなら問題がないのだから。マルセル・デュシャン／問題は存在しない、なぜなら解決がないのだから。久保田成子」

《メタ・マルセル：窓（雪）》1976-77／2019 年

マルセル・デュシャンの《なりたての未亡人》（1920 年）を引用した作品です。デュシャンの窓が真っ黒で何も見えないのに対し、久保田の窓の向こうにはテレビ・スノー（砂嵐）が見えます。当初はブラウン管テレビに空（から）のオープンリールデッキを繋げて再生する形で展示していました。アメリカの NBC テレビが 2001 年のオープニングに抜擢し、世紀の幕開けを飾る記念碑的作品となりました。のちに壁面に次のテキストが添えられるようになります。

「ヴィデオはきのうの窓／ヴィデオはあすの窓」

《デュシャンピアナ：自転車の車輪１，２，３》1983-90 年

デュシャンの最初のレディ・メイド作として知られる《自転車の車輪》（1913 年）を引用した作品で、車輪の中に小型モニターが設置され、そこには人工的な自然の風景が映し出されています。1983 年にニューヨークのギャラリーで初めて展示された際には、モニターが重過ぎて車輪が回り続けなかったといいます。車輪は円（＝輪）であり、始まりも終わりもなく、ひたすら動きつづけます。父の実家が仏教寺院であった久保田にとって、輪廻転生の概念は常に身近にあったテーマでした。

《デュシャンピアナ：階段を降りる裸体》1975-76／1983 年

デュシャンの原作油彩画《階段を降りる裸体 No.2》（1912 年）では、運動する抽象的な裸体が未来派風に描かれていました。本作で久保田は映像をコラージュのように使うことによって、過去の画家や彫刻家が腐心していた時間表現の垣根を悠々と越えて見せました。裸の女性が、ゆっくり／速く／飛ぶように、色や露光をさまざまに変えながら階段を降りるイメージは 3 分ごとにリピートしていますが、どこか異次元空間の出来事のようです。「ヴィデオは空室のアパート／ヴィデオはアートの休暇／ヴィデオ万歳……」

《デュシャンピアナ：マルセル・デュシャンの墓》1972-75／2019 年

「デュシャンピアナ」シリーズとしての最初の 1 点として 1975 年に発表された作品。「デュシャンピアナ」は、1968 年のマルセル・デュシャン（1887-1968）との偶然の出会いと同年の彼の死に端を発して始まった連作で、デュシャンその人や彼の作品をモチーフとしています。

展示室の高さに合わせて積み上げられたモニターからは、久保田が 1972 年にマルセル・デュシャンの墓参りをした際に撮影した映像とその際に録音された風の音が流れています。床と天井に水平に設置された鏡の反射によって、画面が無限に増幅されるような印象を与えます。

裏もあります↓

《ナイアガラの滝》1985／2021 年

大小 10 台のモニターには色加工した春夏秋冬のナイアガラの滝が映し出され、スピーカーから流れる夏のナイアガラの滝の音と、現実の水が落ちる音とが響き合います。流れ落ちる水やプールに張られた水、そして水中やモニターの周囲に貼り込まれた鏡が映像の光を反射し、作品の表情をより複雑に増幅しています。久保田はナイアガラを撮影しながら間近に見て、死の恐怖や自殺の衝動を感じると同時に、自我から解放された気分にしてくれるその独特の美しさに魅了されたといいます。

《スケート選手》1991-92 年

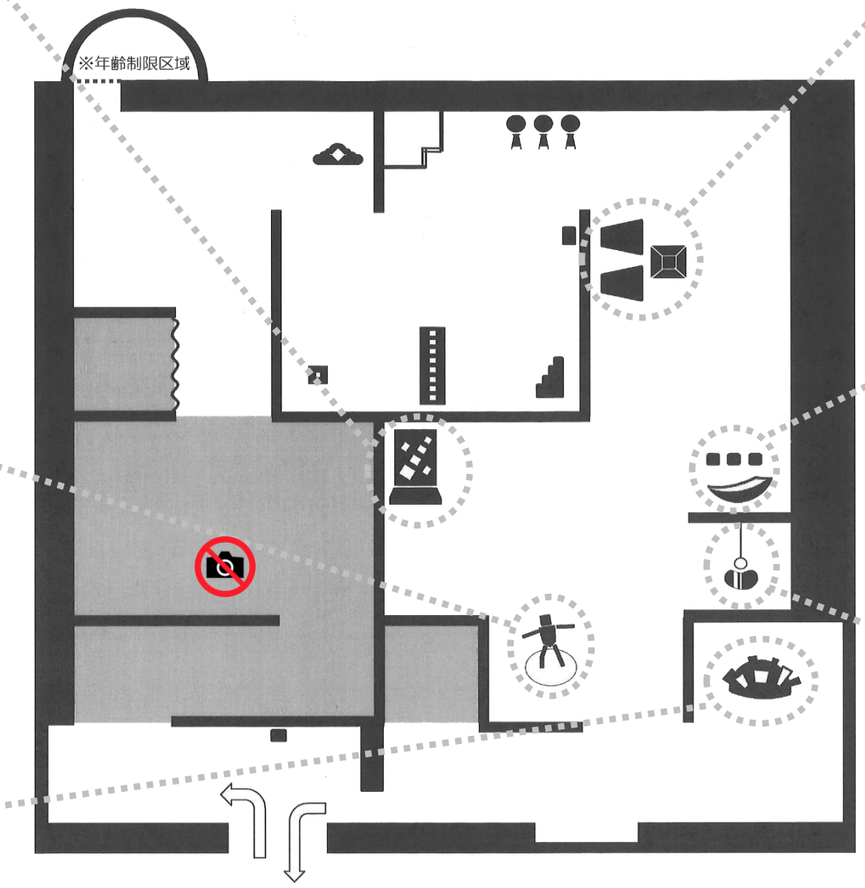
日本人のフィギュアスケート選手、伊藤みどりをモチーフにしています。伊藤がカルガリー五輪（1988 年）でメダルを逃した後、銀メダルを取ることになるアルベールビル五輪開催前の時期に制作されました。回転するスケーターに向けて投影される映像がリンクの上の鏡に反射し、周囲に色とりどりの光を投げかけます。《アダムとイブ》同様、木製の人型が回転するユーモラスな作品です。

《韓国の墓》

34 年ぶりに韓国に帰国したパイクが、親戚に再会したり、家族の墓を参った時の様子を久保田が記録したシングル・チャンネル・ヴィデオ《ブロークン・ダイアリー：韓国への旅》（1984 年）がもとになっています。韓国の墳墓の形を真似た半球体の彫刻が床に直接置かれ、その上に散りばめられたモニターからは同作の映像が流れます。パイクの死後に開催された 2007 年の最後の個展では、まるで墓の中のパイクの魂が外の世界に向かってメッセージを放っているようでした。ここでは、ヴィデオは、あの世とこの世を結ぶ臨界のようでもあります。

久保田成子　略歴

1937 年　新潟県西蒲原郡巻町赤鎦（あかさび）（現・新潟市西蒲区巻町）に生まれる
1960 年　東京教育大学（現・筑波大学）教育学部芸術学科彫塑専攻卒業
1963 年　「第 15 回読売アンデパンダン展」に出品、内科画廊で初個展
1964 年　渡米し、フルクサスに合流
1972 年　アメリカで初めてのヴィデオ・ライヴ・コンサートを開催
1976 年　ルネ・ブロック画廊で個展「デュシャンピアナ」を開催
1977 年　ドイツの「ドクメンタ６」に招待出品
1981 年　ニューヨーク近代美術館に《階段を降りる裸婦》が収蔵される
1991-93 年　個展「久保田成子：ヴィデオ・スカルプチャー」が日米独に巡回
1993 年　「ヴェネチア・ビエンナーレ」「リヨン・ビエンナーレ」に招待出品
1995 年　「マヤ・デレン賞」を受賞
2015 年　癌のためニューヨークにて死去



のエリア以外は写真撮影可です。シェアも OK！
ただし、動画撮影、フラッシュ、三脚、自撮り棒の
ご使用はご遠慮ください。

作品、展示ケース、壁にはお手を触れないでください。

展示室内での通話はご遠慮ください。

展示室内での飲食はご遠慮ください。

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART
新潟県立近代美術館

《三つの山》1976-79／2020 年

それぞれの山にはモニターが複数はめ込まれ、４つの異なる映像が流れるとともに、周囲の鏡によって映像の光は拡張されています。最初に完成した「ヴォルケーノ（火山）」と呼ばれる中央のピラピッドの中は鏡で覆われ、映像とともに鑑賞者の姿も無限に増幅していきます。同作のドローイングからは、久保田が山を自画像的風景と考えていたことがわかります。山をテーマにした理由として、若い頃から親しんでいた日本の山や、ルーツである小千谷の風景にも言及しています。

《河》1981／2020 年

川に見立てられたステンレス製の構造は折り紙の笹船を模しています。上から吊るされた 3 台のブラウン管テレビの画面を直接見ることはできず、水面に映る映像を見ることになります。その水はモーターによって絶えず波を起こし、映し出された映像の中で泳ぐ作家自身の姿と不思議に重なります。そのドローイングには、鴨長明の『方丈記』の一節「ゆく河の流れ」が英語で添えられています。1983 年のホイットニー・ビエンナーレに出品され、その展示風景がアメリカの美術雑誌『Art in America』の表紙を飾り、注目を集めました。

《ヴィデオ俳句―ぶら下がり作品》1981 年

球体のテレビモニターが吊り下げられ、床に設置された丸く湾曲する鏡の上で振り子運動を続けています。下を向いたモニターには上部のカメラで撮影しているモノクロ映像がライブで映し出されており、鑑賞者は床の鏡に映る自分の映像を見ることになります。俳句は五、七、五の形式による世界で最も短い定型詩であり、季節や情景、心情などが表現された短文からは豊かに想像が膨らみます。本作の振り子は俳句のように規則正しく時空を刻んでいます。